

2026年6月市議会(令和8年第2回定例会)報告



国分寺市議会議員
たかせ
高瀬かおる

- 1 新町一丁目緑地周辺の一体的な整備と活用について
 - (1)緑地・樹木の保全と更新について
 - (2)地域力を生かした憩いの場・交流の場づくりについて
 - (3)関係部署の連携を
- 2 医療的ケア児と家族への支援について
 - (1)実態把握について
 - (2)在宅レスパイト・就労等支援事業について
 - (3)横断的に連携できる体制を
- 3 国分寺市まちづくり条例と開発事業に伴う周辺地域の安全確保について
 - (1)調整会について
 - (2)周辺地域の安全対策について
- 4 介護・高齢者福祉について
 - (1)地域資源の共有について
 - (2)多職種連携について
 - (3)介護認定について



国分寺市議会議員
こさか
小坂まさ代

- 1 学校における合理的配慮について
 - (1)今年度の特別支援学級と特別支援教室の状況について
 - (2)学習障害の子どもへの対応について
 - (3)起立性調節障害の子どもへの対応
 - (4)障害理解の取組について
- 2 子どもが毎日楽しく通える学校とは
 - (1)東京都「いじめ総合対策【第3次】」について
 - (2)メンタルヘルスケアについて
 - (3)不登校支援について
- 3 防災対策について
 - (1)被災者台帳作成と災害ケースマネジメント
 - (2)専門知を持つ「学・民」との連携について
 - (3)子どもたちへの防災教育について
- 4 5歳児健診について
- 5 公園について
 - (1)黒鐘公園について
 - (2)管理と運営について
 - (3)市民と共に楽しめる公園づくりを



国分寺市議会議員
まつおか
松岡まり

- 1 心と体を整え自分らしく生きるために
 - (1)国分寺市新型インフルエンザ等対策行動計画について
 - (2)RSウイルスワクチン定期接種事業について
 - (3)文化・芸術活動を通じ五感を大切にすること
 - (4)第2次国分寺市健康増進計画における栄養講座について
- 2 子どもの育ちを応援するために
 - (1)スクールカウンセラーについて
 - (2)教職員の働き方について
 - ①研修・研究発表について
 - ②国分寺市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

子どもたちはどんな学校で学びたいだろう

「少人数で学び合う環境が子どもたちには必要だ。」長野県佐久穂町の大日向小学校と、この春開校した大日向中等教育学校を見学し、その思いを強くしました。

両校は私立で、オランダ発祥のイエナプラン教育を取り入れています。学校全体に子どもも大人も自分らしくいられる穏やかな空気が流れ、異年齢で構成されたクラスでは、子どもたちが輪になって対話し、自分の考えを伝え、人の話に耳を傾けます。教員は「先生」ではなく「グループリーダー」。一方的

に教えるのではなく、子どもと共に学ぶ姿がとても印象的でした。

イエナプランが大切にしているのは、「対話」を通して一人ひとりをかけがえのない存在として尊重することです。今年度は1学級28人でしたが、大切なのは人数ではなく、一人ひとりが安心して対話し、学び合える環境でした。

一方、公立学校ではようやく中学校でも35人学級が始まりました。前進ではありますが、全国学力調査や報告書、アンケートなど「評価のための仕事」は増え続け、教職員が子どもと向き合う時間は削られています。子どもたちもテストや内申点、偏差値など、数値で評

価されることが少なくありません。

今回の一般質問では、「子どもが毎日楽しく通える学校とは」をテーマに取り上げました。大日向のような学校に通うために移住を決断できる家庭は限られています。教室数や教員数など乗り越えるべき課題はありますが、この実践を特別な学校だけのものにせず、公立学校でも生かせる方法を模索したいと思いました。すべての子どもたちが安心して「今日も学校に行きたい」と思える学校づくりを目指し、これからも現場の声を大切に提案を続けていきます。

(小坂まさ代)

先生の笑顔が
子どもの育ちへ

2026年3月、市立学校の働き方改革を進めるための実行計画が策定されました。学校内の様々な仕事で「学校以外」、「教師以外」、「負担軽減」の3分類に分けられ、教員が授業や児童・生徒への指導など本来の業務に専念できる環境を整えることが目的です。

時間外に学校にいる時間について「月45時間以下を100%とする」という具体的な目標も設定。一般質問では、この高い目標を掲げた理由として、行政・学校・教員・地域・保護者が自分事として考える機会にしたいという答弁がありました。学校が本来の業務を超え、様々なリスクやケアを引き受けていると指摘する専門家や教員当事者の声もあり、地域全体で取組むことに大きな意義があります。

教員や職員自らが自分を大事にし、生き生きと生きる姿は、子どもたちの主体的で健やかな育ちにつながります。困り事などを共有し合える風通しの良い学校づくりには、どのようなことが必要か、意見交換をしながら提案していきましょう。

(松岡まり)

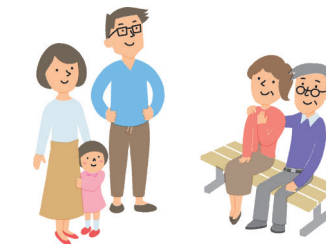


まちの未来を考えよう

市内では宅地開発が進み、国分寺の財産ともいえるまとまった緑が減少しています。寂しさを覚える一方で、地権者の方にとっては、相続の発生により土地を手放さざるを得ない厳しい現実があります。市では寄附や買取の相談があれば公有化を検討しますが、財政や管理体制には限りがあり、簡単には進められません。国の税制改正は不可欠です。

現在、市では、都市の総合的な将来像の設計図とされる「都市計画マスタープラン」の改定作業が始まっています。超高齢社会、人口減少を見ずえると、都市を拡大するだけではなく、暮らしの質をどう高めていくのかが問われます。まちの価値を共有し、次の世代にどんな国分寺を渡すのかを共に考えることが、持続可能な都市づくりにつながると考えます。武蔵野の緑や崖線の景観といった「国分寺らしさ」を残しながら、外出しやすい道づくりや移動手段の検討、ベンチのあるまちづくりなど、将来像を描きましょう。

(高瀬かおる)



PFAS調査の分析を

市では地下水の水質状況を把握するため、「むかしの井戸」を対象に、有機フッ素化合物(PFAS)のうち、PFOS・PFOAは2020年から、PFHxSは2025年から継続して調査を行っています。2026年2月の調査では、5か所の井戸で、PFOS・PFOAの合計値が国の指針値である50ナノグラム／リットル(ng/L)を超えました。けやき井戸ではこれまでで最も高い数値が確認されました。地下水は一度汚染されると回復に時間がかかります。

PFOSとPFOAは用途や発生源が異なるため、どの物質がどの程度検出されているかを個別に公表し、結果を市民と共有することが重要です。継続的に推移を分析することで、地域の特性や発生源の可能性を把握し、地下水の環境改善につなげられるものと考えます。

東京都では今年度、農産物への影響調査も予定されています。都や近隣自治体と連携し、調査結果の分析を踏まえた対策を求めています。

(高瀬かおる)

2026年2月の調査でPFOS/PFOAの合算値が50(ng/L)を超えた5か所

かしの木井戸(東恋ヶ窪6): 94(ng/L)
けやき井戸(小平市上水本町6): 510(ng/L)
わかば井戸(本多5): 60(ng/L)
北町公園井戸(北町5): 190(ng/L)
さつき井戸(内藤1): 100(ng/L)

「むかしの井戸」の調査結果の詳細は市のホームページ参照してください➡

